

多角的なメディアを活用した情報発信事業

— No.10 本庄市 —

【事業の目的】

トルコを相手国とする共生社会ホストタウンとして、選手団との交流による地域の活性化や大会に向けた機運醸成を図るほか、障害者スポーツを通じた共生社会への理解促進、大会を超えたつながりを次代へ繋いでいくことを目的としています。

【事業の内容】

障害者スポーツを通じて、東京 2020 大会や地域が一体となってトルコのパラリンピアンを応援する機運の醸成を図るほか、本市の共生社会の取組を情報発信することで、障害者と健常者が混ざり合う共生社会や多様性への理解を促進します。

また、トルコ国内においても本市のホストタウンとしての認知度向上を図り、両国においてトルコのパラリンピアンを応援する機運を醸成するため、多角的な情報発信を行います。

【事業年度】

令和 2 年度

【予算額(千円)】

3, 805 千円 (一般財源)

9, 835 千円 (オリパラ基本方針推進調査事業)

【財源】

一般財源 (市)、ふるさと創造資金 (県)

令和元年度補正予算オリパラ基本方針推進調査 (国)

【事業実施に至った背景・経緯】

本市とトルコ共和国とは、平成 30 年 12 月のホストタウン登録を契機に交

流が始まったばかりであるため、1人でも多くの市民にホストタウンや共生社会についての取組を周知すること、交流事業に参加してもらうことが必要でした。

また、ホストタウン登録のきっかけとなった5人制サッカー（ブラインドサッカー）トルコ共和国代表チームが欧州予選で敗退し、同代表チームの東京2020大会前の事前合宿が行われなくなってしまいました。その後関係者を通じてパラテコンドトルコ選手団の事前合宿を誘致した経緯もあり、地域が一体となった機運の醸成や情報発信が幅広く図れるコンテンツが必要でした。

さらに、トルコ国内においても本市のホストタウンとしての認知度向上を図り、両国においてトルコのパラリンピアンを応援する機運醸成や東京2020大会への機運醸成も図ることも重要です。

そのため、多角的な情報発信が可能となる事業を検討し、共生社会への理解促進に取り組み、多様性への理解促進を図るための事業を推進しました。

【事業のPRポイント】

多様な現代社会では、高齢者、若年層、子育て世代、外国人などあらゆる人々に情報発信を行うためには、それぞれに合ったツールを活用することが重要です。そのため、子育て世代や若年層に対してはLINEやFacebookといったSNSの活用、高齢者層には地元新聞や地元ケーブルテレビ、海外在住者にはNHKワールドJAPANといった国際放送などの多角的な情報発信ツールを活用しました。

【事業実績・成果・今後の展開】

＜事業実績＞

- 地元紙とタイアップし、本市の取組をLINEで2回配信したほか、1,000人以上が参画したギャザリングアートを制作し、共生社会の取組とともに新聞紙面にて掲載し、12万人以上の方に周知。
- 北澤豪氏を招いたブラサカ体験教室の様子などをNHKワールドJAPANで放送したほか、トルコ国営放送においても本市の取組を放送。トルコに向けたFacebook広告配信も実施し、837万人にリーチ。
- 地元放送局を活用し、市民が参画した応援メッセージ制作、動画を通じた相互交流を実施。
- ブラインドサッカーの日本選手権本庄予選を開催するとともに、市内小学校において北澤豪氏を招いたブラインドサッカーの競技体験教室を行い、体験会の様子は、NHKワールドJAPANでも放送。
- 駐日トルコ大使館のハサン・ムラット・メルジャン特命全権大使がパラテコ

ンドー代表選手団の練習場所を視察したほか、市内小学校において世界最古といわれている陸船車の乗車体験や交流事業を実施。

○JR 東日本高崎支社とのタイアップ事業にて、本庄駅構内にホストタウンポスターを展示し、駅利用者に対しての情報発信。（3月1～26日展示）

○パラテコンドートルコ代表選手団の事前合宿に係る MOU をオンラインにて締結（1月20日）

○共生社会ホストタウン登録（2月26日）

＜今後の展望＞

今後も新型コロナウイルス感染症の影響により映像や動画を活用した交流が見込まれる中、一方的な交流とならないようメッセージに対する選手のリアクションなどを市民に対しても情報発信し、相互交流を図るとともに、引き続きトルコの選手団を応援する機運を高めていきます。

【参考資料】



令和3年2月10日掲載埼玉新聞紙面（2面）



LINE アカウントを活用した配信



北澤豪氏によるブラサカ体験教室を開催



NHK ワールド JAPAN「CATCH JAPAN」で放送



市内小学生との交流会の様子



事前合宿を行う練習施設を視察

〔 連絡先 〕

オリンピック・パラリンピック支援室 0495 (25) 1615 (直通)